

多様性をわかりあい つながりあう集団づくり ー乳幼児期から平和で民主的な社会をめざしてー

2022年 8月27日(土) 28日(日) ^{両日とも} オンライン開催

開催趣旨

近年、保育現場ではさまざまな支援が必要な子や、しんどさや幼さを抱えた子が以前にも増して多くなり、日々保育者は悩むことも多くなっています。しかし、どの子どもたちも認めあい、あたたかいクラス集団の中で、つながりあい育ちあってほしいと願っていることと思います。

集団づくりでは、そのような多様な子どもたちの姿の奥底にあるねがい・要求をとらえ、思いを出しあいながら自分たちで自分たちの生活・あそびをつくり、知恵を出しあってトラブルや困難も乗り越えていくような実践が積み重ねられてきました。その中で、子どもたちは対等平等でお互いの思いを大事にする民主的な関わりを学んでいっています。現在の私たちの社会では、残念ながら不安、分断、紛争などが生じています。だからこそ一人ひとりの思いに耳を傾け、お互いに理解しあって、やりたいことを実現していくこと、そうして子どもも私たちおとなも、平和で民主的な社会を築く主体者として育っていくことが求められているのではないのでしょうか。

このセミナーでは、このような集団づくりの取り組みについて、これまで全国集会で提案された各地の実践に学びながら、大切にしたいことを共有していきたいと思います。

なお、Zoomによるオンラインセミナーとなります。できるかぎり皆さんと交流しつつ、学びを深めていきたいと思います。多くの方のご参加を心待ちにしております。

1日目 8月27日(土) 全体会 13:00~17:00

1.開会のあいさつ セミナー実行委員長：山本 理絵 (愛知保問研)
全国保育問題研究協議会 代表：入江 慶太 (岡山保問研)

2.基調報告 服部 敬子 (京都保問研)

これまでの集団づくり分科会で提起された実践を振り返りつつ、私たちがめざす集団とはどのようなものか、また集団づくりの意義や課題についてみなさんと考えていきたいと思えます。

3.シンポジウム

テーマ：子どももおとなも育ちあえる「対等・平等」の集団づくり

2人からの実践提案をもとに、集団づくりの取り組みにおける大切にしたい視点や課題などについて検討していきます。

コーディネータ 山本 理絵 (愛知保問研) ・ 長瀬 美子 (大阪保問研) ・ 脇 信明 (長崎保問研)

* 実践提案の解説のカッコ内の表記は、全国集会の提案として季刊保育問題研究（新読書社）に掲載された年と掲載号を表します。

【シンポジウムで紹介する実践】

実践提案 中洲 良子（大阪保問研） 「遊びで育ったらいいおん組のクラスリーダー」

5歳児33名を4歳児から担任しました。当初はいわゆる「荒れた崩壊状態」の集団でした。「焦らず、無理やりさせない」、「嫌な思いをしっかり受け止める」、このことを大切に、子どもたちの要求から活動をつくっていきましました。そして5歳児になり、一人ひとりが「失敗しても、間違ったり、忘れたりしてもやり直せばいい、支えてくれるともだちがいて、ありのままの自分をみんなが認めてくれる」、このことが実感できるようにとリーダーに取り組んだ実践です。(2008年 230号)

実践提案 荒武 美保（福岡保問研） 「自分たちの考えをかたちにしていく」

3,4,5歳児の異年齢クラス。25名中、支援が必要な子が2名がいて、その一人がダウン症のA（5歳）です。運動会のリレーに取り組みますが、毎回の練習でAのいるチームが負け続けます。しかし、子どもたちは決してAを見放したり、またリレーをあきらめたりせず、他のチームが手を抜くことも許さない姿勢で本気のリレーに取り組んでいきます。絶えず話し合いをするなかで、知恵と力を出しあい困難に乗り越えていく子どもたちとAの喜びの姿がある実践です。(2018年 290号)

2日目 8月28日(日) 分科会 9:30~12:30

📶 Online

2日目は、5つの分科会に分かれて、実践提案をもとに考えあいます。
希望する分科会を選んでご参加ください。

1. 「安心」と「心地よさ」でつなぐ0~2歳児の集団づくり

【実践提案】 森 さくら（広島保問研） 「いっしょが楽しい！ 0・1歳児の集団づくり」

0歳児クラスの実践提案です。春には1名であった子どもは、どんどん増えて秋には21名の集団となります。「友だちと顔を見合わせてバアっとするのが嬉しい!」、子どもたちの「友だちと関わりたい」思いが、時々肯定的な関わりとして実現されていきます。そして、それを支えているのは、繰り返される保育者の話し合いです。「子どもを真ん中によりよい保育を創っていきける担任集団でありたい」そんな思いを共有しながら、保育者同士もまた支え合っています。コロナ禍だからこそ、今、何が大切かを見つめながら取り組まれた実践です。

【実践提案】 林 準史（福岡保問研） 「子どもも私も響きあう 1・2歳児の集団づくり」

1,2歳児クラスの子どもたちが人と関わる力をどのようにして身につけていくかについて、実践事例を通して分析が行われています。噛みつき事例では、友達と触れたい、繋がりたいという要求の表れとして捉えて、わらべうたの触れ合いあそびを通して要求を実現していくと、噛みつきも次第に減少していきます。友だちが遊んでいると、自分も同じ遊びに参加して響きあう姿も頻繁に見られてきました。それでも発生する衝突については、まずは、その子の気持ちに共感して、その上で解決策を提案しています。響きあいとは、子どもたち同士だけでなく、子どもと大人も響きあって生活をしていることに気づかされた実践です。(2019年 296号)

【運営委員】 鈴木 牧夫（東京保問研） ・ 光本 弥生（広島保問研）

2. 「楽しさ」から「つたえあう」「つながりあう」関係へとはぐくむ 3~4歳児の集団づくり

【実践提案】 細川 真子（三重保問研） 「保育室から飛び出すMにとって戻ってきたいクラスとは」

保育室から出ていくMにとってクラスが戻ってきたい場所となることを追求した実践です。保育室を出ていく姿や、運動会や生活発表会の「やらない」「でも、〇〇はやる」という主張に、保育者はMのさまざまな気持ちが交錯していることを認め、今の姿を受け止めます。保育者が安心して自分の思いをだせる存在であり友だちが一緒にいたいと思える存在であることで、Mにとって居心地のよいクラスとなっていく様子が示されています。(2020年 302号)

【実践提案】 田中めぐみ（仙台保問研） 「グループの仲間との伝え合いを大切に ~相手の思いを知り、考え合おうとする関係へ~」

3歳児クラス、4歳児クラスと続けて担任し、グループ活動の中で伝えあうことを大切に仲間関係を育てていった実践です。3歳児では給食の配膳当番でYのこだわりを知り受け入れていく姿や、発表会前の気持ちを伝えあうことで、安心して楽しく活動に向っていきます。4歳児では一人ひとりの個性が強いからこそ、グループ活動の中で繰り返し思いを伝えあうことを大事にしています。仲間の思いに寄りそうことや、肯定的に受け止める関係性の育ちが報告されます。(2017年 284号)

【運営委員】 丹野 広子（仙台保問研） ・ 大元 千種（佐賀保問研）

3.一人ひとりの思いが認められ、自分たちで考えつくる 実現する

4～5 歳児の集団づくり

【実践提案】 小原 暖子（広島保問研）「みんなのやりたいことをみんなで実現する話しあい」

乳児期から少人数での話しあいを大切にしてきたクラス。4歳になって、発言力のある人達だけでなくみんなが自分の言葉で思いを語れるようになってほしいと願いながら、運動会や「やりたいことリスト」に取り組みました。「それレストラン」では「あおちゃんはすぐ“いいよ”って言う」と班長が心配していた班は、あおちゃんの願いをどうにかして実現させようと考え合い、とびきりの笑顔の（本心からの）「いーよー！」を引き出しました。（2019年 296号）

【実践提案】 磯谷奈津美（静岡保問研）「異年齢の中で受け止められたG（5歳男児）の物語
仲間に受け止めてもらえる、認めてもらえる心地よさ」

2～5歳児13名のおうち。友だちに思いが伝わりにくいGですが、3歳のMに本気で心配されたり作品を全身で褒められたり、4歳児たちとは不思議なごっこ遊びを楽しんでいました。5歳児のお泊まり保育の際には自分の弱さを出すと共感してもらえ、仲間との伝え合いが心地よく感じられるようになっていきました。そして、節分は、これまでたっぷり受け止めてもらってきたGが、みんなの「怖い」という気持ちを受け止めて返す時になりました。（2022年 314号）

【運営委員】 林 若子（南埼玉保問研） ・ 脇 信明（長崎保問研）

4. 仲間のなかで育つ 仲間とともに育つ 配慮の必要な子を含めた集団づくり

【実践提案】 坂田 陽子（仙台保問研）「一人ひとりの思いを大切に 支援が必要な子どもたちと一緒に大人も成長した1年間」

4、5歳児混合クラスの5歳児Rくんは、家庭の事情で進級直後から生活リズムが崩れ、登園時間が遅いために集団に入れないことも多く、気持ちが崩れることが多くありましたが、行事での話し合いや練習を通して徐々に自分の気持ちを伝えるようになり、他の子どもたちもRくんに自分の気持ちをぶつけるようになっていきました。子どもが抱えている背景や一人ひとりの思いを大切にすることで、子ども同士の関係性が深まっていった実践です。（2020年 302号）

【実践提案】 早坂 彩乃（大阪保問研）「友だちのなかで育ったY君」

4歳児から入園してきたYくんは、初めての事に対して、不安や緊張が高く、友だちや担任に対して、暴言・暴力が絶えず、1つ1つの活動に向き合えず参加できませんでした。配慮の必要な子も多い中で、活動の中に無理に参加させるのではなく、気持ちが動くのを待つこと、保育士だけでなく、クラスの友だちにも気持ちを受け止めてもらう経験を大切に保育をしてきました。グループ活動やリーダー制を取り入れながら、話し合いや思いを出し合える場をつくってきました。子ども同士が認め合う関係づくりの大切さを学んだ実践です。（2019年 296号）

【運営委員】 長瀬 美子（大阪保問研） ・ 吉田 真理子（三重保問研） ・ 川上 隆子（熊本保問研）

5. 一人ひとりのやりたいことをみんなで叶える

一人ひとりの主体性と多様性を大切にする保育ー

【実践提案】 市原こころ（静岡保問研）「ゴミ収集車にあこがれてー一人ひとりの要求をみんなで実現していった2歳児クラス」

ゴミ収集車にあこがれる2歳児クラスの子どもたち。ごみに見立てたおもちゃを「全部入れて一気に出す」ことを繰り返す姿に、「やりたい！」ことをさせてあげたいけれど...と担任で悩み始めました。子どものイメージや要求を大切にしながら、「困る」行動を遊びとしてどうかたちにしていけるか、担任間で話し合い、園全体を巻き込むプロジェクト的な活動になっていきました。一人ひとりの子どもの要求を、集団の遊びにいかし発展させていくなかで、子ども同士の関係がどう変化していったのか、そのプロセスも丁寧にえがかれています。（2020年 302号）

【実践提案】 横井 生・古賀さゆり（愛知保問研）「子どもの主体性を大切にする保育とは？」

4歳児、および5歳児クラスにおいて、目の前の子どもの姿から出発し、子どもたち一人ひとりのやりたいことを実現していく生活を大事にし、自分たちの生活を自分たちで決めることや、そのことに大人が価値づけられないことを心がけて保育をしてきた実践です。散歩やお泊り保育、当番活動、鬼ごっこ、秘密基地づくりなど、保育者が子どもたちの声に耳を傾け、子どもたちが仲間とのかかわりの中で願いが叶う体験をし、友だちの多様な思いや意見も大事にして主体的にみんなで考えるように成長する姿を報告します。

（4歳児の実践：2019年 296号 ・ 5歳児の実践：2017年 284号）

【運営委員】 山本 理絵（愛知保問研） ・ 服部 敬子（京都保問研） ・ 中島 常安（北海道保問研）

■ 申し込み方法

◆参加費 : 会員・一般 **2,000円**
 学 生 **1,000円**

◆申込方法：

- ① 以下のアドレス、もしくはQRコードを読み取っていただき、
参加申し込みフォームから申し込みを行ってください。

<https://bit.ly/3njr5zn>

複数名で参加される場合も、お手数ですがおひとりずつ
お申し込みください。その際、同じメールアドレスや連
絡先を使用させていただいて結構です。



- ② 後ほど「受付番号」と共に「振替口座の情報」を送りますのでお待ちください。
受付番号が送られてきましたら、1週間以内に参加費をお振込みください。

▷お振込みをする際には、お名前欄もしくは記入欄に「受付番号の記載」をお忘れなく
お願いします。

▷お振込みがない場合、キャンセル扱いになりますので、ご注意ください。

▷お振込みいただいた後の返金はできませんので、ご了承ください。

- ③ 入金確認後、8月20日を目処に Zoomリンク および 資料ダウンロード先の
アドレスをメールにてお送りします。

*セミナー要項は各自でダウンロードをおねがいたします。

◆申込締切日： **8月10日(木) まで**

◆問合わせ： 全国保育問題研究協議会 事務局 **Tel/Fax 03 (3818) 8026**

Mail : hkakisemi@yahoo.co.jp